

乙会東大進学教室

早慶大日本史明治史特講

早慶大日本史文化史特講

早慶大日本史



1章-1 近代への動き

問題

■確認問題

- 1 フィルモア 2 徳川家慶 3 プチャーチン 4 井伊直弼 5 扨捉
6 居留地 7 イギリス 8 五品江戸廻送令 9 万延小判 10 ヒュースケン
11 A 和親 B 下田 C 箱館 12 D 下田 E 箱館 F 神奈川
G 兵庫 H 運上 13 I 糸 J 神奈川

【1】

■解答

- 問A 5 問B 1 問C 4 問D 3 問E 2 問F 5 問G 2
問H 3 問I 1 問J 5

■解説

江戸時代の文化や社会などを中心とする総合問題。設問・選択肢とも非常に詳細で、難問の部類である。問題文全体の文意を押さえながら、各問の選択肢を一つ一つ丹念に消去していこう。

問A ドイツ人医師のケンペルは、オランダ商館の医師として元禄時代の1690（元禄3）年～92（元禄5）年来日した。この頃幕府の外交政策の中心は、長崎貿易の取引額の制限を行って金銀の海外流出を抑制することであり、1685（貞享2）年には中国船やオランダ船の貿易限度額を制定した。これが定高仕法（定高貿易仕法）である。

1の市法貨物商法は1672（寛文12）年～84（貞享元）年に実施された長崎貿易での取引方法で、中国船やオランダ船からの輸入貨物の買値を抑制して金銀の多量流出を抑制しようとして制定したものである。3の撫恤令は「文化の撫恤令（薪水給与令）」ともいい、日本に接近する外国船を穏便に退去させることを目的として1806（文化3）年に施行された。4の薪水給与令は天保の薪水給与令ともいい、1825（文政8）年に異国船打払令（無二念打払令）を出されたが、アヘン戦争の情報を得て、1842（天保13）年に時の老中水野忠邦が外国船との騒擾を回避すべく打払令を緩和して撫恤令に戻した。

問B ラ（ッ）クスマンは、1792（寛政4）年にロシア女帝エカチェリーナ2世の命令で日本に通商を要求するため根室に來航した。この時、1782（天明2）年に難破してロシアに滞在していた伊勢の船頭の大黒屋光（幸）太夫を送還してきたのである。

2の中浜万次郎はジョン万次郎ともいい、1841（天保12）年に難破してアメリカに渡り米国の市民権を得たが、1859（安政6）年に帰国した。4の津太夫は陸奥宮城郡の漁民で、1793（寛政5）年に難破してロシアに救助され、1804（文化元）年にレザノフによって送還された。

問C 1837（天保8）年のモリソン号事件の後に異国船打払令の無謀さを指摘したのは、高野長英の『戊戌夢物語』と渡辺崋山の『慎機論』である。

1の西川如見の『華夷通商考』は1695(元禄8)年刊行, 2の近藤重蔵が書物奉行となり紅葉山文庫で『外蕃通書』を著したのは1818(文政元)年, 3の本多利明が『西域物語』を著したのは1798(寛政10)年, 5の海保青陵の著書は『稽古談』である。

問D 鄭成功は17世紀初頭の明朝の遺臣で母は日本人である。明朝滅亡後, アモイを拠点に反清朝活動を行い, 日本にもしばしば応援を求めた。1661(寛文元)年には台湾に根拠地を移したが, 翌年死去した。幕府は鄭成功の活動で清との争いが発生することを警戒していた。

1の呉三桂は17世紀の漢人武将で清の中国平定に貢献したが, 後に三藩の乱を起こした。2の朱舜水は, 17世紀の徳川光圀が招いた儒学者。4の王直は, 16世紀の倭寇の頭目で明の密貿易商人。因みに, 1543(天文12)年に種子島へポルトガル人を乗せて漂着した船は王直の所有する船だという。5の李舜臣は, 16世紀末の豊臣秀吉の朝鮮出兵で亀甲船を活用して, 日本軍を悩ませるなどして活躍した朝鮮の武将。

問E 会沢安(正志齋)は水戸学者で, 彰考館総裁などを努めた人物。主著の『新論』を著して尊王攘夷論を唱え, 幕末の尊攘派に影響を与えた。

問F 松平定信が問題文中のような言葉を残した1825(文政8)年は, 列強の船舶の来航数とともに百姓一揆が増加した時期でもあった。また, 定信自身が老中となったのは, 天明の飢饉を背景とした百姓一揆の急増期でもあったため, 百姓一揆の脅威を実感したと考えられる。

問G 『徳川実紀』は, 林述斎が監修したもの。述斎は昌平坂学問所の幕府直轄化をすすめたり, 『寛政重修諸家譜』の編纂など幕府の教学に貢献した。『藩翰譜』は新井白石の著作, 『春波楼筆記』は司馬江漢の著作, 『武江年表』は齋藤月琴の編集, 『大勢三転考』は伊達千弘の著作。本問は『徳川実紀』と『寛政重修諸家譜』が同一線上のものと気づくことがポイントである。

問H 1844(弘化元)年当時の将軍は徳川家慶で, 1837(天保8)年~53(嘉永6)年まで将軍職にあった。3の寄場組合とは, 関東地方の農村と農民の支配, 治安の維持と経済統制を強化するために, 1827(文政10)年に関東のすべての農村を対象に40~50村ごとに組合を結成させたもの。

1の株仲間の解散は, 天保の改革で老中水野忠邦が1841(天保12)年に実施した。2の蛮社の獄は1839(天保10)年, 4のアメリカ東インド艦隊司令長官のビッドルが日本に開国と通商を求めるために浦賀に来航したのは1846(弘化3)年, 5のフランスが琉球に通商を要求したのは1846(弘化3)年のことである。

問I 徳川家康は権力を握ると, 秀吉の朝鮮出兵で途絶した朝鮮との国交を再開する交渉を対馬の宗義智を通じて行い, 1605(慶長10)年に講和が成立し, 1607(慶長12)年には朝鮮使節が来日した。さらに1609(慶長14)年には己酉約条が結ばれた。この結果, 朝鮮との講和が実現し, 対馬藩が外交を専任することとなった。朝鮮使節はのちに通信使と呼ばれ, 宗氏は釜山に倭館を設けて朝鮮との交易を行った。しかし近世を通じて, 天皇はもちろん将軍からも朝鮮への日本国王使の派遣は行われなかった。

問J 問題文にもあるように, 幕府は鎖国政策に関して, 政府間交渉のある通信の国は朝鮮と琉球, 貿易関係のみの国は清とオランダであるとした。朝鮮からは通信使が来日し, 琉球からは慶賀使と謝恩使がしばしば江戸へ来た。また, オランダは出島で, 清は唐人屋敷でいずれも長崎貿易に従事していたことを想起したい。

【2】

解答

ア 松平定信 (1) 琉球王国-薩摩藩 李氏朝鮮-対馬藩 (2) 大黒屋光太夫
(3) ナポレオン戦争 (4) 新論 (5) 渡辺崋山 (6) アヘン戦争
(7) 対中国貿易の中継港や捕鯨船の寄港地を求めた。

解説

ア ラクスマンの来航に際して、時の老中松平定信は外交交渉を行うのは長崎のみとして、長崎に行くように回答した。さらに同じ年に外国船が日本近郊に近づく事件が起こったことで、定信は、諸大名に海防の強化を指示した。

- (1) 鎖国体制下の江戸幕府は、外国との交流をまったく遮断していたわけではなく、李氏朝鮮とは対馬藩を、琉球王国とは薩摩藩を窓口にして外交使節を受け入れていた。
- (2) 大黒屋光太夫は伊勢の船頭で、江戸への航行中にしげにあって遭難し、アリューシャン列島に漂着した。『北槎聞略』は、光太夫らの乗る廻船が遭難してアリューシャン列島に漂着した後、10年間のロシア生活を経て1792(寛政4)年に帰国するまでの出来事を光太夫が口述し、桂川甫周かつらがわ ほうしゅうが記録したものである。
- (3) フェートン号事件は、イギリスの軍艦フェートン号が長崎湾内に侵入し、オランダ人を人質に薪水を強要して退去したという事件である。この事件の背景にはナポレオン戦争でのイギリスとフランスの争いがあった。すなわちイギリスの敵国であるフランスがオランダを占領下に置いていたため、フランスにアジアのオランダ領を与えてはならないということをお口実に、イギリスがアジアのオランダ支配地を次々に奪っていたのであった。
- (4) 【1】の問Eの解説を参照のこと。尊王攘夷論を確立したとされる『新論』は、藩に公刊を許されず広く伝写された。
- (5) 渡辺崋山は三河田原藩の家老で、幕府の保守的な海防政策を批判して『慎機論』を著わした。蛮社の獄に連坐し、国元での永蟄居となり自殺した。また、写生画を描いたことでも知られ、代表作に「鷹見泉石像」がある。
- (6) 1842(天保13)年にオランダ船が、アヘン戦争終結後にイギリスが通商要求のために軍艦を派遣する計画があるという情報をもたらすと、幕府は異国船打払令を緩和して薪水給与令を出し、漂着した外国船には薪水を与えることにした。
- (7) 19世紀に入るとアメリカでは、産業革命を推し進めて中国との貿易を積極的に行うようになり、船舶が太平洋を渡海し、また太平洋における捕鯨業も行われるようになった。商船や捕鯨船が燃料・食糧の補給を受けることができ、緊急時の避難と保護を受けることができる寄港地として日本が目ざされ、開国要求が高まった。そのような中で1846(弘化3)年にビッドルが日本に来航して、国交と通商を求めたのだった。1848(嘉永元)年にはカリフォルニアにおいて金鉱が発見されてゴールドラッシュが起こり、西部地方が急速に開け、中国との貿易や太平洋における捕鯨業はいっそう盛んになった。

【3】

解答

- 1 (3) 2 (3) 3 (1) 4 (2) 5 (5) 6 (4)
7 (4) 8 (4) 9 (4) 10 (5)
11 江戸問屋を経由して横浜から積み出すことを命じている

解説

- 1・2 五品江戸廻送令は1860(万延元)年閏3月に出された。
- 3～5 1854(安政元)年の日米和親条約では、下田・箱館の開港が規定された。1858(安政5)年の日米修好通商条約では、神奈川・長崎の1859(安政6)年7月4日の開港、新潟の1860(万延元)年1月1日の開港、兵庫の1863(文久3)年1月1日が定められたが、実際には、神奈川は横浜に代えて規定の年月に、長崎は規定どおりに、新潟は1869(明治2)年1月1日、兵庫は神戸に代えて1868(明治元)年1月1日に開港している。したがって、神奈川以前に開港していたのは、日米和親条約により、下田と箱館である。
- 6 江戸に入荷する荷物が減少したので、幕府はどのような措置を採ったかというのが問の内容。幕府は重要な5品の神奈川直送を禁じて江戸問屋へ廻送することを命じた。よって都市(江戸)の特権商人を保護したことになる。この法令により特権的な問屋と新興の在郷商人や横浜在住の商人との紛争が繰り返された。
- 7 史料中の中略の部分に、雑穀・水油・蠟・呉服・糸(生糸)の5つの品が挙げられている。
- 8 1858(安政5)年、大老に就任した井伊直弼は、孝明天皇の勅許を得られないままに、日米修好通商条約調印を決定した。この条約調印の背景には、アロー戦争でイギリス・フランスが清に屈辱的な天津条約を結ばせたという事実を総領事のハリスが利用し、イギリス・フランスが日本に来航する以前にアメリカとの条約に調印することを勧めたことがあった。
- 9・10 安政の五カ国条約では、在留外国人の犯罪はその国の領事が裁判を行うとする領事裁判権が認められていた。また、日本は関税を自主的には決定できず、協定関税制であった。これらの条項については日本が自主的に改正できず、不平等条約であった。そのため、明治期の外交ではこれらの条約の改正が重要な課題となった。
- 11 貿易のやり方を改めたのではなく、江戸問屋へ廻送されたものを買取って貿易を行うことは問題ない、と述べられている。

1章-2 江戸幕府の滅亡

問題

■確認問題

- 1 阿部正弘 2 橋本左内 3 松平容保 4 禁門の変 5 生麦事件
6 奇兵隊 7 ロッシュ 8 大坂城 9 山内豊信 10 内大臣 11 参与
12 世直し 13 A 王政復古 B 撰関 C 参与 D 三職

【1】

■解答

- 問1 三職 問2 公議政体論 問3 徳川慶喜 問4 井伊直弼
問5 討幕の密勅 問6 孝明天皇 問7 日米和親条約 問8 薩長両藩の武力
問9 小御所会議

■解説

- 問1 三職は1867（慶応3）年12月9日の王政復古の太政官令により創設された官職であり、最初に任命されたのは、総裁に有栖川宮職仁親王、議定に仁和寺宮嘉彰ら皇族2名、中山忠能ら公卿3名、山内豊信ら大名5名、参与に大原重徳ら公卿5名の総勢16名であった。当初は皇族や公卿が多く任命されていたが、以降政情の変化の中で下級武士出身の者が主体となっていった。
- 問2 土佐藩が主唱した公議政体論は、天皇の下、将軍を含めた列侯の合議で政局運営をはかるといったものであったが、この思想の背景には、欧米諸国の議会制度についての知識の導入があった。
- 問3 「内府すでに政権を返上するも」とあることから、大政奉還を行った最後の将軍の徳川慶喜（内大臣〔=内府〕）のことである。
- 問4 問題文の「将軍職継承」に関しては、13代将軍徳川家定に嗣子がなかったことから問題が生じたのであり、水戸藩主徳川斉昭の子である一橋慶喜を推す島津斉彬・山内豊信・松平慶永ら一橋派と、紀伊藩主の徳川慶福（家茂）を推す彦根藩主井伊直弼ら南紀派とが争った。結局、南紀派の中心であった井伊直弼が大老に就任することで、慶福が将軍となり問題に決着がついた。
- 問5 討幕の密勅は、薩長両藩に密かに渡された徳川慶喜追討の詔書のこと。正式な詔書や綸旨の書式をとっておらず、勅使伝送者の花押もないので、偽勅とする説もある。
- 問6 「幼沖の天皇」とは1867（慶応3）年、16歳で踐祚した明治天皇である。その父は孝明天皇で、1866（慶応2）年に痲瘡で死去したとされるが、毒殺されたとする説もある。
- 問7 1853（嘉永6）年にペリーが浦賀に来航し、その翌年に再来日して結んだのが、日米和親条約（1854）である。日米和親条約は、横浜村においてペリーと大学頭林 燿、町奉行井戸弘通らとの間で調印された。

問9 小御所会議とは、1867（慶応3）年12月9日、王政復古の大号令が出されたその夜に、京都御所内の小御所で開催された御前会議である。この会議において、武力倒幕派は山内豊信や松平慶永ら公議政体派の反対をおさえて、徳川慶喜に辞官（内大臣の官位の返上）と納地（領地の一部返上）を命ずることを決定した。しかしながら、新政権における武力倒幕派の地位は未だ不安定なものであった。そしてついに翌年1月には、辞官納地の決定に憤激した旧幕府・会津藩・桑名藩の軍と新政府軍が戦火を交えるに至った。

【2】

解答

問1 a (シ) b (ウ) c (ネ) d (ト) e (コ) f (チ)
g (ニ) h (カ) i (イ) j (セ)

問2 大政奉還では徳川慶喜の新政権参加が意図されていたが、王政復古では慶喜の新政権参加は拒否された。（47字）

解説

幕藩体制の崩壊に関する設問である。基本的な問題であるので確実に得点できるようにしよう。

問1

- a 島津斉彬は薩摩藩政の刷新に努めて殖産興業政策を実施、ことに洋式兵備の充実をはかり、製錬所・反射炉を設置した。この他、電信・ガス灯の実験など各種の事業を一括して集成館を設立した。將軍継嗣問題では、徳川斉昭・松平慶永らとともに一橋派の支柱として運動した。
- b 島津久光は斉彬の異母弟。公武合体運動の中心として1862（文久2）年、兵を率いて入京し、寺田屋事件により尊攘派を弾圧した。一方、勅使大原重徳を奉じて幕政改革を迫った。参預会議の主導権を握り、1864（元治元）年の禁門の変では会津藩兵とともに長州藩兵を破った。明治維新後は政府の政策に反対し、1874（明治7）年に左大臣に就任したがまもなく郷里に隠退した。
- c 伊達宗城^{むねなり}は宇和島藩主。洋式兵学を導入して大砲を製造した。1854（安政元）年には最初の蒸気軍艦を建造させた。將軍継嗣問題では一橋慶喜擁立に尽力したが、安政の大獄で退隠。1860年代には公武合体運動を推進、1863（文久3）年に参預会議の一員となった。1867（慶応3）年には公議政体派として大政奉還・王政復古にあたり、新政府の議定、外交官知事、民部卿、大蔵卿などを歴任した。
- d 山内豊信は土佐藩主。藩政改革に努め、將軍継嗣問題では一橋派として活躍したが、安政の大獄で隠居・謹慎となった。謹慎解除後、一橋慶喜・松平慶永とともに公武合体に尽力、藩内の急進的な尊王攘夷派への対応に苦慮した。大政奉還を慶喜に建白し、その後も徳川家を擁護するが、王政復古により失敗。維新後は議定・内国事務局総督・刑法官知事などを歴任した。
- e・f 1862（文久2）年8月21日、島津久光一行が江戸からの帰途、武蔵国生麦（横浜市鶴見区）で騎馬のイギリス民間人4名と遭遇し、従士が無礼討ちにした。1名が即死、3名が負傷したため、イギリス代理公使ニールが強硬に抗議し、翌年幕府は償金44万ドルを支払っ

た。薩摩藩との折衝は難航し、翌年7月鹿児島で薩摩藩とイギリスとの間に薩英戦争が起こった。イギリス東洋艦隊7隻は鹿児島を砲撃し、薩摩藩と交戦した。この戦争の結果、薩摩藩は軍備近代化の必要を痛感、イギリスも薩摩藩の実力を評価した。以後両者は接近し、攘夷ではなく開国と倒幕を結びつけた新しい政治潮流を作り出した。

g・h ロッシュはフランスの駐日公使。横須賀製鉄所の建設工事請負・横浜仏語学校創設の他、徳川慶喜に幕政改革を建言するなど、幕府中心の統一政権確立をめざした。イギリス公使パークスと対立したが、本国の政策転換のため帰国命令を受け、1868（明治元）年に帰国した。

i 松平容保は会津藩主。1862（文久2）年、幕政参与となり、新設の京都守護職に任命され、新選組を用いて尊王攘夷運動を弾圧した。

j 八月十八日の政変は、1863（文久3）年8月18日、会津・薩摩両藩中心の公武合体派が、長州藩を中心とする尊攘派を京都から追放した事件。長州藩兵は御所警備を解任されて京都を追われ、三条実美ら公卿7人は長州へ逃走した（七卿落ち）。これにより薩摩・会津両藩以下の雄藩大名中心の公武合体運動が支配的となった。

問2 1867（慶応3）年10月、公議政体論の構想などに基づいた大政奉還が行われた。これは将軍徳川慶喜が政権返上を朝廷に申し出たものだったが、慶喜のねらいは実質的には将軍支配の再構築にあったと見られる。12月9日、王政復古の大号令が出されたが、これは徳川慶喜の政権返上・将軍職辞退を承認するものであり、摂関制と江戸幕府を廃絶し、総裁・議定・参与の三職を設置を定め、神武創業への復古、開化政策の採用を行うことなどを宣言した。この夜、京都御所内の小御所で会議が開かれ、主として徳川氏の処分が論議された。公議政体派は徳川慶喜の列席を主張したが、岩倉具視ら武力倒幕派は慶喜の辞官納地を主張して押し通した。このため鳥羽・伏見の戦い以下の戊辰戦争が起こることになった。

2章－1 明治維新

問題

■確認問題

- 1 由利公正 2 アメリカ 3 御親兵 4 大村益次郎 5 太政官・神祇官
6 壬申戸籍 7 金禄公債証書 8 田畑永代売買の禁令, 田畑勝手作の禁令
9 1877年 10 会議 11 A 五倫 B 切支丹
12 C 太政官 D 三権分立 13 E 辛未 F 血税 G 二十歳

【1】

■解答

- 問1 4 問2 × 問3 5 問4 1 問5 4 問6 3
問7 ②2 ③7 問8 2 問9 ×

■解説

問1 史料Aは王政復古の大号令である。王政復古の大号令は1867（慶応3）年12月9日に天皇が学問所で発した新政府樹立の宣言である。武力倒幕派で公卿の岩倉具視、薩摩藩の大久保利通、国学者の玉松操たままつみさおらが実際の作成に携わった。

問2 史料中の「癸丑以来、未曾有ノ国難」とは、具体的には1853（嘉永6）年のペリー来航をさす。大老井伊直弼が暗殺された桜田門外の変は1860（万延元）年、横浜の開港は1859（安政6）年、日米和親条約の締結は1854（安政元）年、日米修好通商条約の締結は1858（安政5）年のことであり、該当するものはない。

問3・4 王政復古の大号令は、徳川慶喜の將軍職辞退を認め、以後、摂政・関白、幕府など従来の政治組織を廃止し、新たに総裁・議定・参与の三職から成る新政府を樹立し、天皇親政による王政復古を宣言したものであった。最初の三職には総裁に皇族の有栖川宮熾仁親王、議定は皇族から2名、公卿から3名、山内豊信ら大名から5名、参与には岩倉具視ら公卿5名と尾張・越前・安芸・土佐・薩摩より藩士15名が任ぜられた。

問5 政体論の構想に基づき徳川慶喜が大政奉還を申し入れたことから、同日に出された討幕の密勅は大義名分を失った。討幕派は巻き返しをはかろうと、薩摩・土佐・安芸・尾張・越前の各藩に宮門を固めさせクーデタを決行、王政復古の大号令を発することにより新政権が樹立されたのであった。

1は大政奉還をさしている。2の鳥羽・伏見の戦いは戊辰戦争の発端となった戦い。小御所での辞官・納地の決定を受けた幕府側は新政府に反発し、1868（明治元）年1月、ついに戦いが勃発した。3の小御所会議での徳川慶喜の辞官・納地の決定は、王政復古の大号令が出された日の夜に行われた最初の三職会議においてなされたもの。

問6 Bの史料は1871（明治4）年に公布された廃藩置県の詔である。廃藩置県により版籍奉還の後に地方行政官として置かれていた知藩事は罷免され、府知事・県令が中央政府から派遣された。

問7 ②c 版籍奉還では藩は廃止されていない。1870（明治3）年9月には藩制が制定されており、藩の存続がはかられている。藩が廃止されるのは、廃藩置県の実施の時である。

③a 廃藩置県の結果、予想された旧藩主による抵抗はほとんど見られなかった。

b 琉球藩は廃藩置県後に成立している。

問8 アの薩長盟約の締結は1866（慶応2）年1月、イの岩倉遣外使節団の出発は1871（明治4）年11月、ウの太政官札の発行開始は1868（明治元）年5月、エの開拓使の発足は1869（明治2）年7月である。史料Aの王政復古の大号令は1867（慶応3）年12月9日、史料Bの廃藩置県の詔は1871（明治4）年7月14日の公布であるので、該当するものは2つである。

【2】

解答

(ア) 2 (イ) 1 (ウ) 6 (エ) 17 (オ) 9 (カ) 16

解説

(ア) 身分解放令（賤称廃止令）は1871（明治4）年に出された太政官布告で、えた・非人の称を廃止し、平民身分と社会的にも同様にするとしたものであった。しかし、実質的な差別はなくならなかった。

(イ) 1872（明治5）年8月に出された学制は、近代的な学校制度の基本を定めた法令であり、全国を8大学区、1大学区を32中学区、1中学区を210小学区とするピラミッド型の学区制が特徴であった。同時に出された「学事奨励に関する太政官布告」^{おおせいだされしよ}（被仰出書）は国民皆学や教育の機会均等、実学主義的教育理念を明らかにしたものであった。

(エ)・(カ) 地租改正は1873（明治6）年7月に着手されるが、この時、地租は算定地価の100分の3と定められた。また同時に、地租改正条例第6章の中で、将来煙草その他の物品税の増加に伴い、地租は100分の1まで減少させるということが明記されていた。しかしこれは実施されず、1876（明治9）年の真壁騒動（暴動）や伊勢暴動などの地租改正反対一揆の発生に際し、政府は暴動を鎮めるために2.5%に引き下げただけであった。

(オ) 石高に対する年貢の率は「免」と呼ばれる。江戸時代、当初は田の一部を刈り取ってその年の収穫状況を調べ、税率を決定する検見法が採用されていたが、享保期以降は豊凶に関わりなく過去数年間の平均収穫高を基準として税率を決定する定免法が採用されるようになった。

2章-2 近代国家の形成

問題

■確認問題

- 1 十 2 渋沢栄一 3 モレル 4 大久保利通 5 フランス
6 郵便汽船三菱会社（三菱汽船会社） 7 女子英学塾 8 日清修好条規
9 1879 10 自主 11 得撫 12 榎本武揚 13 ケプロン 14 廃仏毀釈
15 ジェーンズ 16 加藤弘之 17 中村正直

【1】

■解答

- A 22 B 14 C 24 D 31 E 24 F 33 G 15 H 31
I 27 J 4 K 17 L 20

■解説

- A 岩倉使節団は岩倉具視を大使、木戸孝允・大久保利通・伊藤博文・山口尚芳^{なおよし}を副使として、1871（明治4）年に横浜港を出発した。
- C・E 工部省は、1870（明治3）年に設置された。殖産興業関連機関として鉱山・製鉄・造船・鉄道・灯台・電信などの他、機械製作や化学工場・工部大学校などを管轄し、官営事業の中心を担った。1885（明治18）年12月、内閣制度創設の際に廃止された。
- D・H 【3】の解説(a)を参照のこと。
- F 長崎造船所は1857（安政4）年に幕府直営の長崎製鉄所として設置されたのが始まり。その後明治になって工部省管轄の長崎造船所となり、1887（明治20）年に三菱に払い下げられ、1893（明治26）年、三菱長崎造船所とされた。
- G 工部大学校は東大工学部の前身。1871（明治4）年に工部省に工学寮を置いて近代工業技術教育を行ったのが始まり。1877（明治10）年に工部大学校とされ、土木・機械・造家・電信・化学・冶金・鉱山の7科が置かれた。工部省廃止後は文部省へ移管された。
- I 【3】の解説(b)を参照のこと。
- J 岩崎弥太郎は土佐在村浪人の子として生まれ、三菱財閥を創始した人物である。吉田東洋らに学んだのち、藩営の商社開成館の長崎商會に派遣され、実業家としての腕を磨いた。明治維新後は郵便汽船三菱会社を創設、佐賀の乱から西南戦争に至る士族反乱や、台湾出兵・江華島事件などで新政府の要請に応じて軍事輸送を引き受けて政府との関係を密にし、日本の海運を独占するに至った。
- K 五代友厚は薩摩藩の儒者の子で、上海やヨーロッパに渡り、薩摩藩の殖産興業政策を推進した。明治維新後は参与や外国事務掛を歴任し、その後は大阪を中心に政商として活躍、明治初期の大阪の実業界の近代化に尽力した。
- L 黒田清隆は薩摩出身で、1874（明治7）年に北海道開拓長官に就任した。政府は北海道開拓に1400万円余を投じたが、黒田清隆がこれを38万円余で五代友厚ら関西貿易社に無利息

30 カ年賦で払下げようとしたことが1881（明治14）年に問題となった。同年の明治十四年の政変により、政敵であった大隈重信は失脚したが、黒田も翌年開拓長官を辞任した。なお、35の黒田清輝は明治・大正期の洋画家である。

【2】

解答

問1 1・2 大久保利通・伊藤博文（山口尚芳も可） 3 西郷隆盛
4・5 板垣退助・江藤新平 6 三条実美 7 明治六年の政変 8 開拓使

問2 (a) 領事裁判権の承認 協定関税により関税自主権の欠如

(b) 津田梅子・上田梯子（山川捨松，吉益亮子，永井繁子でも可），中江兆民

(c) 新潟・兵庫・箱館・長崎から2港 (d) 森有礼

(e) キリスト教の弾圧が外国からの非難の的になっているということ

(f) アメリカ (g) 江華島事件 (h) 日朝修好条規 (i) 北海道旧土人保護法

問3 ドイツの人が，国際社会では国際法よりも国力・武力を背景とした大国の利が優先されると述べている。

解説

問1

1・2 岩倉使節団は1871（明治4）年11月に出発した。使節団派遣に当たり，大久保・木戸ら政府首脳が多数海外に赴くことについて異論が出たが，参議西郷隆盛，同じく参議の板垣退助・大隈重信が太政大臣三条実美を補佐して国事を処理することとした。また，使節団と留守政府との間で，内外の政治は大改革しないこと，政府の要官は変えないこと，変える場合についても内外に照合した上で決定することが取り決められた。しかしながら，留守政府は使節団派遣の間かなりの改革を実施し，このことはのちに政府内部での対立が深刻化する一因ともなった。

3～7 岩倉使節団は当初は条約改正交渉を進めようとして派遣されたものであったが，実際には成果をあげることはできなかった。しかし，使節団として派遣された政府の要人が外国を見聞したことは大きな意義を持った。使節が帰国した頃，留守政府では朝鮮の開国を武力で断行しようとする征韓論が沸騰していたが，これを抑え国内改革の優先を唱えたのは，欧米の進んだ技術や文物を目の当たりにした大久保・木戸・岩倉らであった。結局は岩倉具視が征韓論の無期延期を建言して，このことが決定したため，参議の西郷・板垣・後藤象二郎・江藤新平・副島種臣は下野した（明治六年の政変）。

8 開拓使は版籍奉還後の官制改革で太政官三院の下に設置された。開拓使は北海道と樺太を管轄し（一時，樺太開拓使が分離する），開拓と軍事に当たった。北海道の開拓に当たっては，ケブロンらを顧問に招き，西洋技術を導入し，西洋農法・器械の採用，官営工場の設置，炭田開発，屯田兵の移住などの政策を進めた。

問2

(a) 日本は安政の五カ国条約で，両国で相談した協定税率によって関税を課す協定関税を認めたことから，関税自主権を失い，貿易章程で拘束されることになった。また外国人の犯罪はその国の領事が裁く領事裁判権を認めた。これら2つの条項については日本が自主的に改正

- できない不平等条約であり、領事裁判権の撤廃は1894（明治27）年（実施は1899〔明治32〕年）、関税自主権の回復は1911（明治44）年の条約改正において、それぞれ達成した。
- (b) 岩倉使節団では、15歳の吉益亮子を最年長者として津田梅子、山川捨松、上田梯子、永井繁子の5名の女子留學生が随行した。この時8歳であった津田梅子は、1900（明治33）年に女子英学塾を創設した。高知県出身で『社会契約論』の翻訳『民約訳解』を著し、東洋のルソーと称された中江兆民は、岩倉使節団とともにフランスへ留学し、帰国後仏学塾を開設した。第1回の総選挙に当選したが、民党の妥協に憤慨して辞職した。
 - (c) 安政の五カ国条約では、箱館の他、神奈川（1859年7月4日）、長崎（1859年7月4日）、新潟（1860年1月1日）、兵庫（1863年1月1日）の5港を開港することが定められた。実際には神奈川は宿場であったことから近隣の横浜に変え、兵庫も近接の神戸に変えて1868（慶応4）年1月1日に開港された。また、新潟は実際には1869（明治2）年1月1日に開港された。
 - (d) 明六社の設立者として知られる森有礼は、薩摩藩の出身で、同郷の先輩である五代友厚らの感化を受けて洋学を志した。イギリスやアメリカに留学後、政府に出仕し一時郷里へ戻るものの、再出仕して米国在勤小弁務使に任ぜられ、渡米した。のち駐英公使などを経て、1885（明治18）年、第1次伊藤博文内閣の初代文部大臣として入閣した。1889（明治22）年2月の憲法発布の当日、国粹主義者によって刺された。
 - (e) 1865（慶応元）年に大浦天主堂において7世代にわたって信仰を伝えたキリシタンの末裔が信仰を告白し、いわゆるキリシタンの復活を見た。しかし幕府、さらには明治政府による大弾圧が行われ、浦上の信徒が西日本各藩に配流される事件が起こった。この信徒弾圧に対して、政府は外国公使や領事から人道問題として抗議され、さらに欧米を歴訪中の岩倉使節団も、各国において信仰弾圧の非を説得された。1873（明治6）年、ついに政府は条約改正のため、キリシタン禁制の高札を撤去して浦上の信徒の帰村を許し、260年続いた信仰弾圧は終わりを告げた。
 - (f) 朝鮮では1863（文久3）年に即位した高宗王の父が大元君と称して政権を握り、地主勢力を抑えつつ、台頭する商人勢力を基盤に中央集権化を推進していた。対外的には鎖国政策を堅持し、1866（慶応2）と1871（明治4）年に、ソウルの関門に当たる江華島をそれぞれ占拠したフランス艦隊6隻とアメリカ艦隊6隻を交戦の末、撃退した。
 - (g)・(h) 江華島事件は、日本軍艦雲揚号などが1875（明治8）年に江華島水域に侵入して威嚇行為を行い、江華島の砲台から発砲されたのを機に応戦した事件。翌年、日本はこの事件を口実に軍事的圧力をかけて日朝修好条規に調印させ、朝鮮を開国させた。その内容は、①朝鮮は自主独立の国であることを確認、②釜山・仁川・元山の開港、③日本は領事裁判権を持つというものであり、日本がアジアに押しつけた最初の不平等条約であった。
 - (i) 北海道旧土人保護法とは、北海道のアイヌ民族保護を名目とした法律であったが、実際にはアイヌ民族の呼称を「旧土人」に統一し、同化政策の名の下での差別を助長する政策であった。彼らの生業を剥奪し、強制移住させ、アイヌ語の使用や生活風俗の禁圧など、日本への同化を強要した。
- 問3 岩倉使節団はアメリカを経てヨーロッパ各国に滞在したが、使節はドイツのベルリンで、宰相ビスマルクに招待され会見し、国家建設にあたって大いに刺激を受けた。ビスマルクは、

弱肉強食の現代世界においては万国公法は頼りにならず、国力・武力を振興してはじめて大国と対等の交渉ができるという内容を、イギリス・フランス・ロシアなどに対抗して国権を維持し発展させることがいかに困難であったかという自らの体験に基づいて演説した。この演説を聞いた大久保・木戸・伊藤らは深い衝撃を受け、なかでも大久保利通は帰国後日本のビスマルクたらんことを気取ったという。

【3】

解答

- (a) 三田育種場 (b) 駒場農学校 (ア) 3 (イ) 8

解説

- (a) 三田育種場は、1874（明治7）年に旧薩摩藩邸跡に勸業寮出張所付属試験場として設置されたもので、1877（明治10）年に優良種苗育成の農場とされた。
- (b) 駒場農学校は東大農学部の前身。1874（明治7）年に内藤新宿に内務省勸業寮管轄の農事修学場が設置され、そこに外国人教師を招いて農業技術の研究や伝習を行ったのが始まりで、のちに農学校とされた。
- (ア) 内務省は1873（明治6）年に太政官のうちの1つの省として設置されたもので、勸業・警保・戸籍・通信・土木・地理の各寮から成った。政府の実質的中枢機関として民衆行政の全範囲を統括し、言論・思想の取締りや労働運動の弾圧なども行った。
- (イ) 新渡戸稲造は旧5000円札の肖像としても著名な人物で、アメリカやドイツに留学後、札幌農学校教授や東京帝国大学教授、国際連盟事務局次長などを歴任した。また初代東京女子大学の学長でもある。主著の『武士道』は数カ国語に訳されて広く世界に日本を紹介した。

【4】

解答

- 1 フ 2 ネ 3 ホ 4 サ 5 ノ 6 エ 7 ニ 8 ク
9 セ 10 チ 11 テ 12 タ 13 ヒ

解説

殖産興業と文明開化に関する問題である。間違えやすい選択肢が並んでいるので、細部にまでわたった確実な知識が必要である。

(A)

1854（安政元）年に2度目の来航をしたペリー提督により、モールス電信機が伝来し、以来電信開設の申し出が内外から相次ぐ中で、1868（明治元）年、新政府は電信官営を決定し、その建設を神奈川県知事寺島宗則に一任した。こうして1869（明治2）年9月19日、東京から横浜まで電信の架設工事が開始され、のちにこの日は電信電話記念日に定められた。さらに同年12月25日には、東京―横浜間に公衆電報の取り扱いが開始された。1877（明治10）年になると、電信は九州から北海道の小樽にまで通じ、東京に電信中央局が設けられ、1878（明治11）年3月には電信開業式を挙行政した。

前島密^{ひそか}は近代郵便制度の創始者であり、1円切手にも描かれている。郵便事業は1871（明治4）年から東京―大阪間で開始されたが、その際、郵便切手が発行された。1873（明治6）

年には全国均一料金とし、国営郵便制度が確立された。

(B)

国立銀行はアメリカの国法銀行制度の導入を伊藤博文が提案し、渋沢栄一らの尽力によって1872（明治5）年11月国立銀行条例が公布された。すべての国立銀行に発券を認める分散的発券銀行制度であった。当初は金兌換を求めていたため、第一国立銀行など4行しか設立されなかった。1876（明治9）年の改正で金兌換が廃止され、金禄公債証書による出資も認められたので、銀行設立は急増したが、政府は1879（明治12）年、第百五十三国立銀行を最後に設立認可を停止した。1882（明治15）年の日本銀行設立後は、国立銀行の発券業務は次第に整理され、1899（明治32）年2月までに普通銀行に転換するなどして国立銀行は消滅した。

(C)

明六社は1873（明治6）年に森有礼が西村茂樹と発起し、翌1874（明治7）年2月に明六社制規を制定した。創立社員は他に、加藤弘之・杉亨二・津田真道・中村正直にしあまね・福沢諭吉・箕作みづくりしゅうへい秋坪・箕作りんしょう麟祥がいた。同志の集会、意見の交換により、知を広め、識を明にすることを制規に掲げる。毎月2回集会し、演説会を開催、『明六雑誌』を発行した。

「万国公法」は幕末維新时期に移入された欧米の国際法。オランダで学んだ西周は、フィッセルリングに教授された国際法を『万国公法』として1868（明治元）年に刊行した。

『文明論之概略』は福沢諭吉著。1875（明治8）年刊行。西洋文明を摂取し、「日本国民の独立を保つ」必要を説き、併せて西洋・日本の文明の由来・特徴を論じている。

(D)

黒田清輝は法律研究のためパリに行き、途中で画家に転向、ラファエル＝コランに師事。外光派の清新な画風を伝えた。1896（明治29）年に白馬会を創立し、1898（明治31）年には東京美術学校西洋画科初の教授となり、文展創設にも尽力した。また、帝国美術院院長、貴族院議員を歴任している。代表作は「読書」「湖畔」。

彫刻では荻原守衛おぎわらもりえが、はじめは小山正太郎に師事して洋画を学び、1901（明治34）年に渡米、1903（明治36）年には渡欧し、フランスでロダンの「考える人」を見て彫刻に転じた。生命感の表出に優れ、日本の近代彫刻界に転機をもたらした。代表作は「坑夫」「女」。

3章－1 原始・古代の文化

問題

■確認問題

- 1 聖明 2 三経義疏 3 飛鳥寺 4 四天王寺 5 鞍作鳥（止利仏師）
6 曇徴 7 薬師寺 8 薬師寺東塔 9 恭仁京 10 孝謙天皇 11 僧尼令
12 仏教の戒律を伝えるため 13 校倉造 14 百万塔 15 芸亭 16 懐風藻

【1】

■解答

- A 15 B 12 C 19 D 9 E 4 F 18 G 20 H 11
I 8 J 7

■解説

A・E 日本の学制は概ね唐の制度に準拠している。唐では国子・太学・四門・律・書・算の六学があり、国子・太学・四門はいずれも経学を講じるものだった。日本の学制は当初、太学をモデルにした大学寮が設置されていたが、奈良時代の初め頃には、学制の改革が行われて大学という形で内容的にも規模的にも整備されていった。

B・C 「718年に……制定された」とあるのがヒントとなる。日本の大学については、その起源は天智天皇の時代に遡るが、その具体的な様子は明らかではない。大学の制が整った形で定められたのはおそらく大宝令を最初とする。但し、大宝令は伝存せず、718（養老2）年に藤原不比等が編纂した養老律令とその内容は大差がないと考えられるので、この制度の詳細が明らかになるのは養老律令においてである。

D 大学寮は式部省の管轄下に置かれた。なお、おんみょうりょう陰陽寮は中務省、てんやく典薬寮は宫内省の管轄下にそれぞれ置かれていた。

F・G もともと、令制では経学（みょうきょう明経）と算の2学科であり、明経博士と算博士が置かれていたが、天平初年には、みょうぼう明法・紀伝の2学科が独立学科として認められ、律学（明法）博士・文章博士が置かれるとともにそれを学ぶ明法生・文章生も置かれた。後世、これら4つの学問は明経道・算道・明法道・紀伝道として四道と呼ばれるようになった。なお、紀伝道は中国の史学・文学を学ぶ学問、明法道は律令や格式を学ぶ学問である。

H～J 平安時代初期には、就学の奨励や学校財産の補強、学科内容の充実など大学振興策が採られるようになり、大学は最盛期を迎えた。貴族の学問に対する関心も強く、有力な氏族は子弟の寄宿・勉学の便宜をはかるために大学寮付属施設としてだいがくべっそう大学別曹を設立するようになった。大学別曹としては、わけ和気氏の弘文院、かんがく藤原氏の勸学院、橘氏の学館院、源氏・在原氏など皇族出身氏族のための奨学院などが挙げられる。

【2】

解答

(a) 四天王 (b) 薬師三尊 (c) 高松塚古墳 (d) 天寿国繡帳
(e) 玉虫厨子 イ C ロ I ハ G ニ A ホ J

解説

古代の仏教文化に関する設問である。設問では文化の順に並んでいないが、解説は古い順に並べ替えた。基本的問題であるので確実に全問正答できるようにしよう。

●飛鳥文化

7世紀前半の推古朝を中心とする時期の文化。飛鳥を中心とする仏教文化で、日本文化の基層に、高句麗文化や遣隋使・遣唐使により新たに伝えられた隋と初唐の文化などの影響を受けて結実した。

飛鳥時代を代表する金銅像が、623年に鞍作鳥により完成された法隆寺金堂釈迦三尊像である。北魏様式で、左右対称を基調とした平面的美しさを保っている。アルカイックスマイルを浮かべた神秘的な顔つきや印を結ぶ両手の形は印象的で、抽象的で鋭い輪郭や衣文線の動きとともに、厳格な精神性を表現している。

中宮寺天寿国繡帳は、622年の聖徳太子没後に後の橘大^{おおいらつめ}郎女が発願し、太子が天寿国に往生した様子を表したもので、下絵の上に刺繍が施されている。

法隆寺玉虫厨子は、彩色には切箔が使用され、当初は透彫りの金具の下に玉虫の翅鞘が敷きつめられていた。宮殿部扉に二天・菩薩像と多宝塔供養図を、同背面に浄土図、須弥座前後面に供養図と須弥山図、同両側面に捨身飼虎図と施身聞偈図を、それぞれ漆絵と密陀絵（一種の油絵）の技法を併用して描いている。

●白鳳文化

7世紀後半の天武天皇・持統天皇の頃を中心とする文化。朝鮮半島を媒介としながら、間接的に初唐文化を摂取した。清新で大らかさを示している。

薬師寺は天武天皇の勅願により、皇后（のちの持統天皇）の病氣平癒を願って建立され698年に完成している。金堂の薬師三尊像は、写実的な金銅像である。東塔は卓抜な意匠から成る天平期の名建築で、三重塔でありながら各重に裳階^{もこし}をつけ、六重の屋根が微妙な出入りを繰り返しながら、美しい姿を見せている。

興福寺仏頭は、もとは蘇我倉山田石川麻呂発願の山田寺にあったもので、興福寺東金堂の本尊として引き取られていたが、火災に遭い、頭部だけになってしまった。球体を思わせる丸く張った顔つきには、清純な若々しさが感じられる。

法隆寺金堂壁画は、日本初の本格的な絵画作品であるとともに、新様式の完成を示す傑作である。1949（昭和24）年の火災で飛天を除くすべての壁面が焼損した。西域伝来の隈取りを用いた陰影法によって立体感豊かに彩色され、諸尊像は引き締まった端正な表情と均斉のとれた理想的な体つきを示していた。

高松塚古墳壁画は、700年前後の製作とみられ、日月・星宿・四神の他、4組の男女の群像を描く。高句麗や初唐の墳墓壁画の影響を強く受けている。

●天平文化

聖武天皇在位の時期を中心とする8世紀の文化で、律令政治はこの頃最盛期を迎え、強力な中央集権国家が形成され、奈良の都では華やかな貴族の世界が展開していた。天平文化は遣唐使などによって次々にもたらされた唐の最新の様式が母胎となって発展したもので、豊かな国際性を特色としている。

東大寺戒壇院四天王像は、洗練された写実表現が見られる塑像である。この時期の塑像にはこの像の他に、東大寺法華堂執金剛神像や新薬師寺十二神将像などがある。

興福寺の阿修羅像を含む八部衆像や須菩提像を含む十大弟子像は、733（天平5）年から翌年にかけて造営された興福寺西金堂に置かれていたもので、いずれも脱乾漆の技法で制作されている。

薬師寺吉祥天画像は、美しく着飾った唐装の貴婦人の姿に描かれているが、これは仏教画として制作されたものである。

【3】

解答

- 1 (A) ロ (B) ハ (ア) 蘇我蝦夷
- 2 (C) ロ (D) ハ (E) ニ (イ) 太安万侶 (安麻呂)
(ウ) 本居宣長
- 3 (F) ハ (G) ロ (エ) 日本三代実録
- 4 (H) イ (I) ハ (J) ロ (オ) 藤原道長

解説

1 6世紀前半、『帝紀』『旧辞』が成立したとされる。『帝紀』は大王の皇位継承を中心にした古代の伝承・歴史などを記している。『旧辞』は大王に関する物語の伝承や神話から成るといわれる。『古事記』序文には、『帝紀』『旧辞』に言及している。推古朝において、厩戸皇子（聖徳太子）は蘇我馬子と協力して国政の改革に当たった。その時代の歴史書の編纂については、「是歳（620年）、皇太子（厩戸皇子）、嶋大臣（蘇我馬子）と共に議して、天皇記及び国記、臣連伴造国造百八十部并公民等本記を録す（『日本書紀』）」という記述がある。『天皇記』『国記』の内容は不明であるが、『天皇記』は『帝紀』と同性質のものであり『国記』は日本の国としての歴史を記したものらしい。645（大化元）年、飛鳥板蓋宮において、蘇我入鹿は中臣鎌足・中大兄皇子らに暗殺された。乙巳の変である。大臣の蘇我蝦夷は自宅に放火して自殺した。その際、蘇我蝦夷は『天皇記』『国記』などを焼いたが、『国記』の一部については取り出されたという。

「蘇我臣蝦夷等誅に臨みて悉く天皇記・国記・珍宝を焼く。船史恵尺、即疾く焼く所の国記を取りて、中大兄に奉獻す。」（『日本書紀』）

2 元明朝の712（和銅5）年に『古事記』が完成した。『古事記』序文において、太安万侶（安麻呂）は、その成立の事情を次の様に書いている。

「是に、天皇（天武天皇）の詔りたまひしく、『朕聞く、諸家の所賣てる帝紀と本辞と、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふ。今の時に当りて其の失を改めずは、幾年も経ずして其の旨滅びなむとす。……』と。……即ち、阿礼に勅語して、帝皇の日継と先代の旧辞とを誦習

はしめたまひき。……和銅四年九月十八日に、臣安万侶に詔して、稗田阿礼が所誦^{よめ みことのり}の勅語の旧辞を撰^{しる}び録^{たてまつ}して献上らしむといへり。』

つまり、天武天皇の命令より、諸家の所伝を正し、皇統を明らかにする目的で、稗田阿礼が帝紀と旧辞を誦習した。それを元明天皇の命令で、太安万侶が『古事記』として完成したのである。『古事記』は漢字の音訓を用いて日本語の文章を表現しており、3巻より成る。上巻は天地の初めから天孫降臨前後に至る神々の物語、中巻は神武天皇より応神天皇までの英雄伝説、下巻は仁徳天皇から推古天皇に至る物語である。本居宣長は、賀茂真淵の示唆により、『古事記伝』44巻を著した。1764（明和元）年頃着手して、1798（寛政10）年に完成、1790～1822（寛政2～文政5）年に刊行された。巻1に「直毘^{なおびのみたま}霊」を収め、日本古来の精神に帰ることを主張した。

- 3 元正朝の720（養老4）年に舎人親王・紀清人らにより『日本書紀』が完成した。『日本書紀』は『日本紀』ともいい、30巻と系図1巻（現存せず）より成る。神代から持統朝末年の697年までの記事が、正式な漢文によって、編年体で記述されている。編年体は年月日順に出来事を記述する歴史叙述法。その素材としては、『帝紀』『旧辞』の他、百済の記録、寺院・個人の記録、氏族の家伝などが用いられている。なお、『日本書紀』が先例となって、以下のように勅撰の六国史が編纂されたが、これらは漢文・編年体の体裁を共通とする。

書名	記述年代	撰者	成立年
日本書紀	神代～持統（～697）	舎人親王ら	720
続日本紀	文武～桓武（697～791）	菅野真道・藤原繼縄 ^{つぐただ} ら	797
日本後紀	桓武～淳和（792～833）	藤原緒嗣 ^{おつぐ} ら	840
続日本後紀	仁明（833～850）	藤原良房ら	869
日本文徳天皇実録	文徳（850～858）	藤原基経ら	879
日本三代実録	清和～光孝（858～887）	藤原時平・菅原道真ら	901

菅原道真の『類聚国史』は六国史の記事を事項別（神祇・帝王・後宮・政理など）に分類し、年代順に収録した史書である。892（寛平4）年に成立したが、その後の成立である『日本三代実録』の記事を後人が増補したと考えられる。六国史の記事検出に便利であり、古代史研究の重要史料である。

- 4 『竹取物語』は9世紀末～10世紀初め成立の現存最古の物語である。作者不詳2巻。かぐや姫の物語の中に当時の貴族社会を描く。その後、次のような物語が生まれた。

成立	書名	内容
10世紀前半	『伊勢物語』	歌物語の初め。在原業平の恋愛談が中心。
10世紀中頃	『大和物語』	前半は歌物語。後半は伝説・説話集的性格。
10世紀後半	『宇津保物語』	前半は学問・芸術。後半は左大将の娘貴宮 ^{あて} をめぐる結婚談。
	『落窪物語』	継母にいじめられた落窪の君と貴公子の幸福物語。
11世紀初め	『源氏物語』	紫式部の長編物語。前半は光源氏、後半は薫大将が中心。

これらの物語文学が成立したのち、続いて国文体（かな混じり文）の歴史物語が著された。具体的な作品としては、11世紀頃に『栄花（華）物語』が成立している。この作品は宇多天皇から堀河天皇までの15代200年に及ぶ宮廷貴族の歴史が、藤原道長の栄華を中心に編年体で記述されている。正編30巻は万寿年間（1024～28）頃に赤染衛門^{あかぞめ えもん}が著したともいわれており、続編10巻は1092（寛治6）年以降に成立、出羽弁の作ともいうが、いずれも確定していない。また、平安時代後期には『大鏡』（『世継物語』ともいう）が成立した。文徳天皇から後一条天皇（850～1025）の、とくに藤原道長を中心とした藤原氏の栄華を批判を交えて、紀伝体で記す。紀伝体とは、本紀・列伝・忠（部門別）・表（年表）によって歴史を記述する方法で、例えば、『大鏡』は(1)序文、(2)帝紀（文徳天皇～後一条天皇の略伝）、(3)摂関・大臣列伝（冬嗣～道長の列伝）、(4)藤氏物語、(5)昔物語により構成されている。その他の紀伝体の史書としては、『元亨 釈書』^{げんこうしゃくしょ}や『大日本史』が挙げられる。

さらに『大鏡』の影響により、1170（嘉応2）年に『今鏡』（後一条～高倉）、鎌倉時代初期に『水鏡』（神武～仁明）、南北朝期に『増鏡』（後鳥羽～後醍醐）が成立し、これらは併せて四鏡といわれる。「日本紀などはたゞ片そばぞかし。……」の部分は、『源氏物語』からの引用である。

3章－2 古代の文化

問題

■確認問題

- 1 加持祈禱
- 2 顕戒論
- 3 円仁
- 4 金剛峰寺
- 5 凌雲集
- 6 綜芸種智院
- 7 日本三代実録
- 8 本地垂迹説
- 9 1052年
- 10 南無阿弥陀仏
- 11 往生要集
- 12 寄木造
- 13 巨勢金岡
- 14 藤原清衡・藤原基衡・藤原秀衡
- 15 前九年の役
- 16 梁塵秘抄

【1】

■解答

- 1 欽明
- 2 552
- 3 律
- 4 最澄
- 5 1052
- 6 比叡
- 7 法然
- 8 『正法眼蔵』
- 9 景戒
- 10 源信

■解説

- 古代の仏教に関する問題である。いずれも基本問題なので確実に解答してもらいたい。
- 1・2 『扶桑略記』には、継体天皇の時に司馬達等が渡来して飛鳥の坂田原に草堂を結び、仏像を礼拝したという記事が見られ、この頃に仏教は私的には伝えられていたとされる。6世紀の欽明天皇の時に、百済の聖明王が欽明天皇に仏像と経典を贈り、正式に仏教が伝来した(仏教公伝)。この公伝の年については、『上宮聖徳法王帝説』や『元興寺縁起』では538年とされ、『日本書紀』では552年とされているが、現在では538年説が有力視されている。
 - 3 南都六宗の1つである律宗は戒律とその実践を重んじ『四分律』などを研究する学派で、日本には天武天皇の時代に伝わっていたが、本格的な研究は唐僧である鑑真の来日以降のことである。鑑真は東大寺に仮の戒壇かいだんを設け、聖武太上天皇らに戒を授けた。後に正式に設けられた東大寺戒壇院と下野薬師寺・筑紫観世音寺の戒壇は天下三戒壇といわれた。
 - 4・6 最澄は日本天台宗の祖。若くして得度し、比叡山で修行して、のちの延暦寺となる草堂を開いた。804(延暦23)年に遣唐使に伴い入唐、天台の教義・禅・戒律を学び、多くの経典を携え翌年帰国した。空海とは同時期に入唐し、帰国後には親交を結んだが、のちに宗教観の違いから、その仲は険悪となった。
 - 5 末法思想は釈迦の入滅後1000年を正法とし、次の1000年を像法、その後の1万年を末法として仏法が衰える乱世と見なす仏教的歴史観である。政治的混乱や社会不安を背景に、日本ではこの末法が始まるのを1052(永承7)年とする説が普及し、阿弥陀仏へ救いを求める浄土教が流行した。
 - 7 法然みまさかは浄土宗の祖。美作の生まれで、初め比叡山で天台宗を学んだが次第に浄土教に傾倒するようになり、専修念仏による往生を唱え、浄土宗を開いた。
 - 8 『正法眼蔵』しょうぼうげんぞうは日本曹洞宗の開祖道元の撰した法語集で、日本曹洞宗の根本聖典とされる。『正法眼蔵随聞記』は道元の法語を弟子の懐奘えいじゆうが筆録したもの。
 - 9 『日本霊異記』は日本最古の仏教説話集とされ、薬師寺の僧景戒きやうかいによって著された。822(弘

仁13)年頃に成立。中国の説話集に倣っており、因果応報に関わる話が多い。

10 『往生要集』は、比叡山横川の恵心院に住して恵心僧都と呼ばれた天台宗の僧源信が985(寛和元)年に著した。経論の中から地獄・極楽の様子を記した文章を提示して念仏による極楽往生の方法を示し、浄土教信仰の理論的根拠とされた。中国でも絶賛された。

【2】

解答

問1 ④ 問2 ② 問3 ① 問4 ④

解説

問1

ア 直前の「定期的に開かれた」がポイントとなり、月3回開かれた三斎市が入る。三斎市は平安時代末期から室町時代にかけて、畿内先進地域はもとより、全国各地で発達した。荘園の中心地や交通の要所、寺社の門前などで月に3回開催された。室町時代になると月に6回開かれる六斎市も普及した。

イ 連雀商人が入る。連雀とは荷物運搬用の木製の背負道具のこと。市の発達とともに行商が盛んになり、室町時代にはこの連雀を背負った連雀商人が各地で活躍し、連雀商人は行商人を表す言葉となった。問丸は中世、港湾や重要都市・町に居住して物資の管理や中継ぎに従事した業者のこと。

問2

- ① 各地の特産物を納める調は、庸とともに、地方の役所ではなく、中央政府に納められてその財源となった。よって誤り。調は令制下において物納税の中核をなす税目で、本来は贄とともに神や共同体首長への貢納物であったと考えられる。贄が山海の産物であるのに対し、調は繊維製品を中心とした。大宝・養老令制では、正丁には繊維製品を初め海産物・鉄・銀などが課せられ、次丁は正丁の2分の1、中男は4分の1を負担する定めであった。
- ② 庸は力役である歳役の代納物と規定されており、大宝令以降は、歳役はいっさい徴発されず、すべて庸で徴収されたと考えられている。よって正しい。布(2丈6尺)・米・塩などで納入され、京・畿内は対象外であった。
- ③ 雑徭は、国司がその国の道路や堤防などの土木工事に農民を使役する労役である。よって誤り。正丁で年60日以内と規定されたが、農民にとっては重い負担で、のちに30日以内に半減された。
- ④ 調・庸・雑徭は皇族の他、八位以上の官人にも課せられなかった。よって誤り。その他、防人・衛士・奴婢・家人・女性にも課せられなかった。

問3

① 高級絹織物の原料となる生糸は、江戸時代初期まで日明貿易や南蛮貿易などを通じて中国から輸入されたものが主として使用されていた。しかし、17世紀末より輸入制限がなされ、国内生産が推奨されるようになった。なお、1604(慶長9)年に、生糸価格の抑制や商人の統制などの目的で、徳川家康が堺・京都・長崎の有力町人を糸割符仲間とし、糸割符仲間が白糸(生糸)を一括購入して売却し、その利潤を分配するようになった。1631(寛永8)年に中国船、1641(寛永18)年にオランダ船もその対象とされ、糸割符仲間には江戸・大坂

の有力町人が加わるようになった。

- ② 京都の西陣では高機を使用した高級絹織物が生産されたが、江戸時代後期にはその技術が地方へも伝えられ、北関東の足利・桐生などでも生産されるようになった。
- ③ 『農業全書』を著したのは、大蔵永常ではなく宮崎安貞である。
- ④ 問屋制家内工業は、問屋商人が原料や道具などを家内生産者に貸し付け、その製品を独占的に買い上げる生産形態である。自前の原料・資金で生産する農村家内工業に対して江戸時代中期頃から絹織物業や綿織物業を中心に広まっていった。

問4

- ① 絹は織る前にあらかじめ染め分けた斑かすりの糸（絹糸）を用いることによって文様を表した織物。日本の絹が飛躍的に発展するのは江戸時代後期から幕末・明治期のことで、井上伝の工夫で成長した久留米絹くろめがすりが綿織物として著名。その他綿織物として知られるのものとして小倉織、琉球絹などがある。
- ② 藍は四木三草の1つ。葉・茎から染料をとり、紅花・茜などと並び、染料として古来重用された。阿波の藍は重要特産物として阿波藩主蜂須賀氏の奨励・保護を受け江戸初期から栽培された。早くから藩外へ販売し、藩の有力な財源となった。
- ③ 特権商人の流通独占に対して、在郷商人が中心になって起こした請願闘争を国訴という。19世紀前半に綿作が盛んな河内で起こった国訴が最初である。
- ④ 幕末の開国によって大量に輸出されたのは、生糸である。幕末日本の綿織物産地が損害を被ったのは、イギリス産などの安価な綿織物が大量に輸入されたためである。よって④は誤り。

【3】

解答

- 問1 ① 問2 ④ 問3 ④ 問4 ③ 問5 ② 問6 ③ 問7 ④
問8 ② 問9 ② 問10 ①

解説

国宝に関する問題で、内容は基本的設問である。

- A 1784（天明4）年、博多湾にある志賀島の百姓甚兵衛が発見した金印は、『後漢書』東夷伝に記された、建武中元2（57）年に光武帝が倭の奴国王に与えた印綬に当たると推定されている。福岡市博物館に所蔵されている。
- B 『日本書紀』によると、広隆寺は603年、秦河勝はたのかわかつが聖徳太子から賜った仏像を本尊として創建された。また623年には新羅から伝来した仏像が広隆寺に納められているが、各記録と半跏思惟像との関係は不明である。一般には韓国国立中央博物館所蔵の金銅弥勒像との類似が指摘されている。本像はもとは金箔貼りの華麗な仏像で、現在でも一部に金箔が残っている。中宮寺半跏思惟像は、飛鳥時代に弥勒菩薩として作られたが、平安時代以降は如意輪観音とされ、現在に至っている。像は中宮寺建立の本願である聖徳太子に関わって造立されたものと推定される。
- C 聖武天皇は相次ぐ混乱の中で、国家の鎮護るしやなを求めて、745（天平17）年8月、大和国国分寺（金光明寺）で盧遮那大仏の造立を開始した。金光明寺は747（天平19）年頃から東大寺

と称されるようになった。大仏はその年の9月から鑄造が開始され、752（天平勝宝4）年に開眼供養が行われた。1180（治承4）年、反平氏の姿勢を明確にした東大寺と興福寺に対して、平清盛は平重衡しげひらに命じて攻撃させ、大仏殿を初めとする伽藍などが灰燼に帰した。東大寺再建は大勸進重源によって進められ、大仏鑄造・修理には宋の鑄物師陳和卿が当たり、1203（建仁3）年には総供養が行われた。戦国時代には東大寺は松永氏と三好氏との争いの戦場となり、大仏殿は炎上した。この再建は江戸時代までずれ込み、大仏の開眼供養は1692（元禄5）年に、大仏殿の落慶供養は1709（宝永6）年に行われた。これが現在の大仏殿である。東大寺法華堂の本尊は不空罽索観音像で、悩める衆生をもれなく救済し誓願を空しくすることがないという本誓を示している。造立は8世紀中頃で、内部が空洞の脱乾漆像で、頭部には宝玉をちりばめた銀製の豪華な冠を戴いている。

D 教王護国寺（東寺）は、794（延暦13）年の平安遷都とともに、王城鎮護の目的で、西寺に対して羅城門の東に建てられたものと考えられる。823（弘仁14）年、嵯峨天皇はこの寺を密教の根本道場として空海に賜った。これが真言宗としての教王護国寺の始まりである。空海が教王護国寺で最も力を入れたのは講堂の建立であった。講堂の中央には、金剛界大日如来を中心にした五仏、その他に五菩薩と五大明王、さらに四天王、また梵天・帝釈天と、合計21体の仏像が安置されている。これは密教の根本道場と鎮護国家の寺院という空海の理想を表現した立体曼陀羅と呼ばれている。また、高野山金剛峰寺は、816（弘仁7）年、空海の開創になる。

E 金閣は、室町幕府3代将軍足利義満の北山山荘北山殿の中の舍利殿で、1397（応永4）年に完成し、北山文化を代表する建造物だったが、1950（昭和25）年7月2日、寺の徒弟の放火により全焼してしまい、1955（昭和30）年に再建された。そのため現在では国宝には指定されていない。1層を住宅風、2層と3層を仏堂風に造り、2層に観音像を、3層に仏舎利を祀り、屋上に黄金の鳳凰を飾ってあった。1層には阿弥陀・観音・勢至像、夢窓国師像とともに国宝である木造足利義満像が安置されていたが、灰燼に帰した。なお、このことを知らなくても、選択肢の中から金閣と最も関連深い足利義満を選び出すことができるであろう。